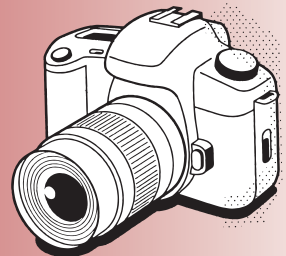




まちで見つけた
ニュースをどうぞ!



このコーナーでは、いろいろな出来事や話題を紹介します。皆さんの身近な情報をお寄せください。

〈連絡先〉

秘書広聴課広報係

TEL 22-3281

FAX 22-3124

Eメール info@city.saiki.oita.jp

ブルーツーリズム研究会を 蒲江で設立

1月24日、蒲江の地域づくりグループや漁業関係者で構成される「かまえブルーツーリズム研究会」の設立総会が、大分県マリンカルチャーセンターでありました。

同研究会は、蒲江の自然や産業を生かしたブルーツーリズムについての研究や実践を行い、交流人口の増加や地元住民の生きがいづくり、豊かな自然環境の保全を進めるこ



設立総会の様子



「産地芸能人」に任命された皆さん

とを目的に、設立されました。総会では、発起人を代表して、佐伯市蒲江観光協会会長・橋本正恵さんが、「人情にふれ、交流できる地域づくりを進め、それを次世代へつなげていきたい」とあいさつ。橋本さんが議長に選任され、会の規約、事業計画などについての議案を審議しました。その後、会員の中から、漁業などの海に関する技術を後世へ伝える「海部の伝道師」と、地元特産物の宣伝を行う「産地芸能人」がそれぞれ任命されました。同研究会はこれから、国の補助を受けながら、「かまえゆかり読本」の刊行やホームページの開設を行い、蒲江のブルーツーリズムに関する情報を発信するとともに、海部の伝道師・産地芸能人のイベント等での活動、地域通貨の実証実験に取り組んでいく予定です。

直川の「かぶとむしの村構想」を 韓国の大学生が視察

2月10日、韓国の全南（ジョンナム）大学文化芸術特性化事業団教授・朴光曙（パク・カンソオ）さんと、学生の皆さんが直川を訪れ、地域で取

り組んでいる「かぶとむしの村構想」を視察しました。この視察は、昨今の日本の昆虫ブームと、昆虫を使った地域づくり研究のために行われたものです。当日は、「かぶとむしの村構想」の概要を、直川振興局職員がスライドを使って説明した後、養殖施設などを見学しました。学生の中には、初めてカブトムシの幼虫を見る人もいて、興味深く観察していました。

今回は、お互いにとって、大変有意義な交流となりました。カブトムシをきっかけに始まった交流が、韓国と日本の友好の架け橋となることを期待します。



カブトムシの幼虫を観察中

園芸関係表彰で 佐伯市から3名が受賞

2月7日、大分市のトキハ会館で、県主催の園芸関係表彰式があり、今年度、園芸作物の品目ごとに行われたコンクールや品評会で、優秀な成績をおさめた皆さんが表彰を受けました。

今回、佐伯市からは3名の方が表彰を受けました。皆さんおめでとうございませう。

〈受賞者の皆さん〉
・樋口元徳さん（蒲江葛原浦）
第15回大分県野菜経営コンクールにおいて、大分県議

議長賞を受賞。いちごの高品質・高所得経営で地域の模範となっていることが評価されました。

・津田親喜さん（蒲江森崎浦）
第10回大分県果樹産地活性化プラス10運動推進コンク

ールにおいて、農水省生産局長賞を受賞。非農家出身ながら短期間でハウスミカンの栽培技術を習得し、高い反収（1反あたりの平均収穫量）を確保したことが評価されました。
・柴田徳夫さん（戸穴）



皆さんおめでとうございませう（写真左から、樋口さん夫妻、柴田さん夫妻、津田親喜さん）

第44回大分県花き展において、九州農政局長賞を受賞。花付きのよい優れたトルコキキョウを栽培したことが評価されました。

春近を告げるシロウオ漁

2月1日、番匠川で「シロウオ漁」が始まりました。シロウオは、体長が4センチほど、



船の上で静かに群れを待ちます

黄色味をおびた半透明の体をしたハゼの仲間です。水ぬるむこの季節、シロウオ



捕れたばかりのシロウオ

漁の特徴である、竹でつくられた「やな」が立つと、春の足音が聞こえてきます。ゆるやかに流れる番匠川に船を浮かべ、シロウオを網へと追い込む棒を漁師が振り下ろすと、水面をたたく音が静かに響きます。

漁師歴3年目の米沢万治さん（稲垣区）は、「うまく群れを網に誘い込み、ごっそり捕れるとうれしい。シロウオとの知恵比べに勝つことが漁の醍醐味です」と話してくれました。捕れたシロウオは、親戚や友人に配るそうです。

親子で楽しくサクラを植樹

2月12日、葛、港西区の子ども会が、地域の美化と親睦を図ろうと、「第1回親子ふれあい記念植樹会」を開催しました。会場となった市内葛港の「港口マンパーク」には、子どもや保護者、地元住民をはじめ約60人が集まり、ソメイヨシノザクラの木10本を植樹しました。

今後、ブーゲンビリアも植える予定ということで、植樹を終えた参加者からは「春の花見が待ちどおしい」との声



きれいな花が咲きますように

蒲江花き生産組合が設立30周年

1月20日、蒲江花き生産組合の設立30周年を記念した式典が、蒲江地区公民館であり、組合員と関係者約80人が出席しました。

式では、蒲江の花き栽培の歴史が紹介され、功労者の皆さんへ感謝状が授与されました。来賓のあいさつに続き、若手組合員を代表して三原昭司さんが、「先輩方がこれまで築いてきた蒲江ブランドに磨きをかけ、次の世代につなげていきます」と決意を述べました。



式典に出席した皆さん